

山とキス



第二十號

次目號二十第

記事

米國スキー見聞記……………郡場 寛 (三)

雪の立山針木峠を越えて……………澤田武太郎 (六)

浮動クリスチャニア……………讀岐 梅二 (一〇)

本邦に於けるスキーの団体……………(一九)

圖版

氷雪の境……………(二)

伊吹山練習場……………(三)



Three things only are necessary for the salvation of a mountaineering holiday: good health, good fellowship and good climbing; These three conditions are mutually contributory and interdependent; and the last, the delicate object of the association, is only attainable when the other two are secure.

G. W. Young



米國スキー見聞記

關西スキー俱樂部

郡

場

寛

米國は南方のフロリダでは冬も水泳が出来るが、北方では華氏の零下に下る所も尠くない。然し寒くとも雪の多い所ばかりではなく、且大部分平原であるからスキーに適してゐる所は米國全体として見れば寧ろ尠い方で、北方及西方の山岳地方に限られてゐる。であるからスケートは盛んにやられるがスキーは割合に廣まつて居らぬ。スキーと云ふ詞を知らぬ人も尠くない。

然しスキーの始つたのは日本よりは遙に早く、一八八六年那威テレマルケンの名手、

Mikie & Tojus Kemmestvedt 兩氏が之を輸入し、それ以來、北方の諸州に先づ廣まり一九〇〇年の冬にはウイスカンシン州のアツシユランド、ミネソタ州のレッドウッド、ダラス等にスキーのクラブが出来、一九〇四年には早や各地クラブの合同統一が成立つた。米國は何事によらず聯合統一して進歩を圖る所に特色がある。其後西方の諸州にも漸次流行し今では毎年それ等各地に競技が行はれてゐる。そしてジャムブのレコードの百呎前後のものは餘程前から出てゐる。余は三年前の冬を米國で暮し、紐育、ボストン、アマスト、イサカ、シカゴの諸地でスキーが段々盛になつてゐるのを見、尙シカゴでは折よくジャンプの競技會に接する事が出来たから、其のお話をしようと思ふ。若し多少でも参考になれば幸甚である。

シカゴには *Norge Ski Club* が云ふ主に那威人から成立つてゐるクラブがあり、一九一九年の春には二回の競技會を開いた。此の地方は雪は澤山降ることもあるが少い事もあり、冬中スキーをやること云ふ事は無論出来ず、又附近一帯平原であるから競技場は北西凡四十哩の *Crav Station* の東南凡そ二哩 *Fox River* 河畔の小丘上に在る。然し丘は餘り高くないので飛躍するまでの滑降斜面は櫓を築いて補つて居り、之をスライドと呼んでゐる。

スライド（本誌第八號一一頁参照）は鐵の桁で作り上げ、高さ十二間（但目測）斜面の長さ三十間ばかりでその急な所は四十二度位ある。歐洲に普通にある（スキー術の書物などで見る）ものよりは急で且長い様に思はれる。スライドの中は十尺、兩側に欄杆があり斜面には板を敷き梯子形に横木を附けて登るに便してゐる。（八號一二頁参照）尙スライドの三分の二程の高さの所に片側四尺巾に窓の様に開く所があり其裏に第二出發臺が設けられ、其所からも滑り初められる様にしてゐる。是は初歩の人の役に立てるのである。競技の日には此の斜面の一方凡そ六七尺の巾、數寸の厚さに雪を敷き詰める。（一三頁参照）躍臺（プラットホーム）は高さ凡そ七尺、その下から前方二間許りの所から躍下斜面が次第に急になり、八九間前からは特に土を掘り取つて三十五度位の斜面として居り、是が十數間下るに其から半町ばかりは傾斜が次第に緩くなり、遂には反對に

傾いた斜面に移る。だから此地のジャムバーは躍下着陸した後、眞直に滑り進んで此の逆斜面で自然に止る様にして居り、方向回轉をやらぬ。尙躍臺の左右及び谷下にも二個の觀覽席があり、次の丘には飲食店がある。又躍下斜面の一側に階段を設けて昇降に便してゐる。

餘の見た時の競技會（三月九日）は二哩の山野滑走競走（*Open country run*）がジャムプとであつた。然しジャムプは競技の眼目であり滑走競走はその支度の出来るまでに餘興的に婦人の會員だけに行はれたものにすぎぬ。そして此日のレコードは第一着一五分三八秒であつた。スラローム其他の技術を見せる競技の一も無かつたのは些か物足らなかつた。蓋し此の地方は雪も少く山も無いから普通の人の練習する機會が餘りない爲かも知れぬ。競技場でも覺束ない滑降をやつてゐる小児等を少し見受けたが、他は殆どジャンパーと其の見物人丈であつた。ジャムバーにはクラブの會員の他に本職の人もあり又他の地方からの飛入もあつた。

扱、愈々ジャムプのお話に移るが、今先づジャムプの普通の經過を見るに「宜しい」と云ふ相圖が下から見るとスライドの上で待つてゐる撰手が滑り始める。スライドの急斜面は、普通の姿勢で滑降するが其所を過ぎた頃から体を屈め始め、跳躍臺の四五間前から緩く跳び上る様に身を立てる。間もなく空中に突進し兩腕が前へ出る。それから

腕を開き（跳臺を離れてから五分の二秒位）空を下へ敲きつける。其を二三回も反復する内に着陸する。着陸の時はまだ直立のまゝで、急斜面を落下する様に滑降り、傾斜の緩くなると共に始めて滑降の姿勢に歸り、そのまゝ直滑降で半町餘も行き、逆斜面で自然に停止する。

而し澤山のうちには着陸してから轉ぶのもあり、その前から姿勢の壞れるものもある。抵抗物があつて突作に轉ぶのではなく、滑降飛躍に際する平衡の亂れに由り轉ぶのであるから、餘程前から——スライドを滑降してゐる内から

——不安定の徴候が現はれて来る。何にしろ細く、急な、搖れるスライドを滑降するのだからそれ丈でも樂ではないらしい。その際一度不安定が萌すと其が段々増長して来るそれを防がうとして跳ぶ前から既に腕や体を動かし始めるものもある。斯様なジャムプであるに、姿勢が悪いばかりでなく、腕の振り方も不規則で烈しく、よしや轉ばずに着陸しても、其後の滑降中には大低轉ぶ。スライドを滑り出してから、跳下し着陸して止るまでに十何秒もかかるのだから、其間に起る不安定の生長して行く具合を手取る様に追跡することが出来て面白い。

斯ふ云ふ事を見てゐるうちに、ジャムプの際空中に居る時間が何れ丈けのものか知りたくなり、耳に時計を當て、跳臺を離れてから着陸するまでの時間を三回測つて見た。そしてその都度、跳下の距離が報告せられるから、ジャム

プの平均速度もわかつた。参考の爲に記す。

飛躍時間(秒) 飛躍距離(呎) 平均速度(秒呎)

一、六 一〇三 六四、四

二、〇 一三三 六六、五

二、二 一四七 六六、八

秒速六六呎とするに一時間四十五哩になり極く早い汽車には及ばない。して見るに速度其物としては別段驚くほどのものでない。物体が真空を落下して二秒後の速度（六四、七五尺）と大体似てゐる。

右の測定では遠く跳んだ場合程、速度が早くなつてゐる。是は一体跳下するときは、前方への速度は空氣の抵抗で時と共に減するが、落下の速度は時と共に加はるから遠く跳ぶもの程着陸間際の速度が早くなつて居るのにも由るかも知れない。（勿論詳しく云へばまだ不明の點が澤山ある。跳臺は凡五度前に傾いて居るが、飛躍する際には上手な者程上に躍り上るだらうから、其水平からの傾が必ずしも一定して居ない。空氣の抵抗は何れ丈け影響するかも知れない。）然し遠く躍る者程、跳臺を離れる時の速度も亦早いものらしい。なぜかと云ふと、スライドを滑り始めてから跳臺を離れるまでの時間は皆同一でない。早いのは四、四秒遅いのは四、八秒位かゝつた。是はスキー底面の具合などにもよるだらうが尙姿勢や滑り様にも由る可きは言ふまでもない。大体から云ふに滑り始めは極遅く、急斜面を過ぎ

た頃から速度が急に加はるが、姿勢よく順調に來たものは常に早い。であるから、遠く飛ぶものはスライドを滑り終る時の速度も亦早いものと見られる。して見ると、跳下の距離の遠近は必ずしも跳臺を離れる時跳上り氣味にする否に由りてのみ定まるものではなく、跳び離れる時得て居る速度にも支配せられるものである。そうすると跳下のレコードは着陸斜黒の傾斜の具合に由る外に、スライドの如何に由り非常に違つて來、高い長いスライドであるが自然に跳下の距離も遠くなるわけである。であるからレコードの大小、丈では必ずしも各地の選手の優劣を定むることは出來ない。同じスライドでなければ比較はされぬ。

當日の優勝者は *Emur Jensen* と云ふ那威生れの男で十八才の時米國へ渡り今は水兵をしてゐる。レコードは一五一呎。此男二週間前の競技會には一六〇呎を跳んで矢張優勝であつた。所が此日、コロラド州の *Tumac County Winter Sports Club* の競技會で *Andrew Haugen* と云ふ男が二二三呎跳んで世界的レコードをなしたと云ふ事が翌日の

新聞に出て居つた。是は要するに技術にも由るが又、スライドの如何にも由る事と思はれる。高い長いスライドを滑り終ふせてジャムプが出来る様になりさへすればレコードも自然に増加する筈である。

尙此日、競技が終つてから *Tansen* と *Mehter* との二人で双並跳下 (*Thin jump*) をやつて見せた。スライドの中は、窓のある狭い所では六尺足らずであるが、其所を二人並んで滑つて來て見事なジャムプをやつたのには皆々喝采した。是で競技會が終り僕の話も終つたが、尙ついでに一寸話したいのは、米國では何所の運動具屋で見てもスキーの縮具は皆那威式である。塙國式は遂一度も見ない(是は塙國の隣の瑞西でもそうである)尙スキーの材としては從來は矢張 *トモ* (とねりこ屬) が良いと云はれたが今では *Hickory* (胡桃料) が賞用せられ歐洲へも輸出せられて居る相だ。外に *Pine* (何松か知らぬが) も輕快、安價の點で廣く使はれてゐる。(完)



雪の立山、針木峠を越えて

澤田武太郎

この旅はもこ四高旅行部で計劃致したのですが、参加する人々が減じて私一人となつてしまひ、遂に決行致したのです。而し主として吉嶮寺の佐伯平藏が骨折をして呉れて私をして成功せしめました。

初めからこの旅には天候を極度に心配しました。それは丁度此の時期は二日ご好天氣が續かないとのことでしたから、それに可なりの冒険だつたからです。萬事は平藏が備へました。

人夫。佐伯平藏。同喜一。同嘉左衛門。

嘉左衛門は此の行の案内者で、冬の間、平の小屋に居て、羚羊狩を、若い時にはやつたご云ふ男で、その當時は大町吉嶮寺に立山をまたいで活動した、寧ろ發展した愉快な奴です。

食料品は夏の登山と同様なものを携へました。ハム、チーズ、アルコールの類は特に、多量に持参致しました。立山温泉で食料品が得られるだらうとの予想で日程、三日分しか間に合はない程の量でしたけれども、——而し立山温泉では、私等一行より三日前に人が登つてゐて、食料品は充分に補充することが出来ました。

防寒用意としてはスキーに行く支度でした。(關温泉あたりの標準)又それで充分で

した。私はこの旅の半分は羚羊の皮で作つた一種の靴〔「そつべ」云つてゐます。皮のある方を外にしてあります〕を用ひて見ました。これは浸水の憂あり、又足に苦痛を與へその上歩き難るものです。

スキーを用ひない雪の上での交通具としては獵師の用ひてゐる輪かんじきを使用しました。これは先年の上高地への旅にも同じく、非常に靴と親しみが好いものでありました。一寸見ると接觸が硬い様ですが實際やつて見ると案外なものです。

四月の雪は硬化してゐるので標では樂々と歩きました。履物としては私が靴を用ゐた外は信濃毎日新聞の所謂純日本式のもので、人夫は勿論此のソツペを足袋と草鞋の間にはさんで穿きました。

三日とも好天氣でしたから光線の反射が極端にひどく曇眼鏡が大した役をして呉れました。

私は四月二日（一九二一年）に芦峯寺の平藏方に着きました。稼人は月の一日と三日と七日は泊りに出ない。こんな習慣が芦峯寺では昔からの掟となつてゐる。劔の谷にその名が附いてゐる長次郎も平藏もこの村字の人々です。而して平藏は大分日本山岳會の人々に教育されたと自分で云つてはゐますがやつぱり五日と七日には出ないと頑張ります。三日には南風が吹き出した。立山から吹き下す生温い風です。午後には荒となりました。四日も未だ雲行はなほ

りませんでした。五日は出られない。それで六日によつと七日の天氣を見越してこの村から二里も無ささうな藤橋で夏の茶屋を占領して明日の旅途をひそかに祝してゐました。七日はまた雨に暮れました。八日もまた雨にあけました。

私にとつては、平湯から上高地へこの時分出た大正九年の經驗あるのみですから雪の山途の不安を痛切に恐れてゐました。それで思はずながらも偶然の晴天の享樂を享樂するために一週間ものむだな、あきあきする時間を我慢を致しました。而してこの無神經的な我慢は充分償はれましたけれども、何もするこゝなく芦峯寺の平藏の家に四日、藤橋の小屋に三日不安と慍意と、今思つて見てもいやになります。

而してこの小屋を出たのは、八日でした。なんさなく大町に出られる予感に喜悅してゐました。空はだん／＼晴れて行く。材木坂を登ります。（この行、初は彌陀ヶ原を通り松尾を下るより直接に立山温泉に行く予定でしたが、途中トンネルがあるさうで、それが通行不可能だろうとのことでしたし、又立山温泉に人の上つたことが不確實でもあつたのでした。トンネルを通つたか否かの問題となります）こゝらは雪が浅く岩が露出してゐます。美女坂へ出ると雪はかなりあり、カンデキに齒切りよくあたつて來ました。美女平へ出たときにはもう、空はすつかり晴れて紺い青い色に空氣は流れてゐた。遠く藥師が望まれました。かすかな

朝日が梢を通して影を雪の面におとします。「ぶな坂」にさしかゝつたときにはかなり氣温は増し、日珊瑚の様な梢の枝からは、解けかけた雪が、無愛想におちて來ます。兎の跡はあつても兎は居ません。

彌陀ヶ原の入口あたりで正午になりました。又曇つて來ます。この原は一面の雪の砂漠で松尾峠の位置が廣漠としたこの砂漠の一角にあるので、もし深く霧に罩められると夏でも旅人が迷ふのださうです。而して冬幾人かの獵師がこの原を越えて立山温泉に歸らうとして生命を犠牲にしたとのことです。それで今度の旅は、嘉左衛門は云つてゐる彌陀ヶ原を越へて松尾を下つてしまへば、もう半分の成功だ。自分の若いさきし狩(かもしか)を職業としてゐるたさき幾度もなくこの危い經驗をした。だから己れが居れば他の三人の命は受け合つた。然しもし万一、吹雪にでも遭へば、それは温泉に出られれば僥倖だ。それであるから初めから天氣が、この旅の尤も顧慮すべき問題でした。これがために忍んだ七日の無爲な生活も敢て生活せねばなりませんでした。彌陀ヶ原を登り行くにつれて天氣は安定になりつゝありました。なんとなく今朝の予感が再び腦に迫つて來ました。あそこが松尾峠だと思はれた時は午後一時半でした。も早不安はさつて希望が満ちてゐる。雪はかなりしまつてゐました。カンデキの齒切は非常に氣持がいゝ。タテヤマウサギでもあらう白毛兎が盛んにとんでゐます。

立山連峰の一がほのかに雲の間から見られました。殆んど平面に近いだつ廣い處で一寸方向を取りちがへればとんでもない處に出てしまふ。松尾峠は切り立つて湯川の(温泉の方に)落ちてゐる。この峠の頂上から左に下りた。かなり軟かい雪の上を膝までもぐつて川岸に下りたのは三時頃でした。安定になりつゝあつた天氣は晴れた空を現はした。五色ヶ原のこつちの崖が恐ろしく急に處々雪をも積らせないで迫つてゐる。立山温泉は夕映の内に暮れた。温泉には三日前に番人が雪路を芦峠寺の隣村からやつて來てゐました。

朝敦に明けた温泉は、又かく別に美しい。サラザラ越に出ないで、直接に五色の南に出て、越中澤の頭に出やうとする。朝の雪は凍つてゐた。カンデキが通らぬ。鳶の南の嶺線に出たのは正午でした。午頃にかけて雪は非常によく齒切れる。而して越中澤ヌクイ谷の頭に立つたのが三時頃空は極端に晴れてゐた。越中澤の大きな谷の雪は粉雪でした。膝までではいる。雪が割れて水が出てゐる邊(大分下つて)からは濕つぽい雪となつてゐました。なだれが小さな岩崖がらマリの様にかさなり合つて出てゐる。平の小屋に着いたのが三時頃、今年冬、越中の獵師がこの小屋を根據として針ノ木谷でかもしかを狩つたので小屋の入口だけは開けてあつた。黒部の水は少く、夏の夕方ぐらいの水量もない。

十一日、冷たい、黒部の水を、フクラハギまでぬらして彼岸へ渡りました。切れる様に冷たい。兩岸には雪が四尺程も積つてゐた。至つて安全に渡れます。針の木澤の黒部に落ち込む處は雪がない處が諸々にありました。雪はカンヂキに齒立たない程でもありません。針の木の大きな斜傾に來てからはもう輪カンヂキは齒立たない個處が多い。非常な不安と恐ろしさを感じました。やつこ針の木の峠の頃上に立つたとき天氣は悪くなつて來ました。而して吹雪が襲つてきた。正午頃には我々は安全に針の木の信州側の大きな傾斜の頭から粉雪をけさばしながら今夜のあたたかさをたのしんで馳せ降てゐました。大澤の小屋は雪の下で見えなかつた。大澤の小屋から一寸下つた處には大きななだれが出てゐました。而してこのなだれは三日の南風のまきに似たのだと嘉左衛門は云つてゐた。谷が廣くなるともう雪が處々消れてゐる。高瀬を遠く望む處からは雪は一寸もありませんでした。

ごく大ざつぱに路すぢだけを書いて見ました。私は今山好の人々にお話を致すつもりで書いてゐます。私は雪の針の木を越えた者として、何と云つてもこれに就て後からこの峠を越える方々に對して前の經驗をお話するの義務を感じてゐます。それでかう云ふ記行文に到つて拙である自分が拙なる文を書かねばならなくなりました。

尚私が入に聞かれる毎にお答へするこの旅に就て二三

の事柄があります。

一、雪は私の行つたときは、獵師(越中)の經驗によつて尤も輪カンヂキで歩きよい時に、絶對的に好天氣を俟つて行つたものです。それでスキーで行かれる方々には直接の御參考にはなりません。とりわけ雪の知識が無い私のこゝ故。

二、私の行つた時節では輪カンヂキの方がスキーよりも良くはないかと思つたことです。概して否一般に信州側の谷は雪が紛雪でした。越中側は凍つてゐました。東向と西向で日射の關係でしょう。それ故越中から信州へ出る方標ではその逆より遙に樂です。

三、雪崩の出る時節は私の行つたのが丁度中間(第一と第二の)の時ださうです。この雪崩の出る處は時々又雪のある處とない處と又はその多少に就ても芦峯寺邊の獵師の經驗に依る外ありません。針の木信濃側の籠川の雪崩は何時でるかその處、程度、時間などは對山館でもお聞ききになれば百瀬氏は獵師に聞いてお知らせするでしょう。

四、私は元來少なからず山の生物に興味と關心を持つてゐます。それでこの針の木を越えた動機も雪の高地の生物の生態を知りたいためでした。併し好事家の知識と經驗では殆んど無でした。何も見た點はありません。それであるから少くとも私は希望として有能なスキー諸家は一寸この方面にお注意をねがひたい。

五、私の旅は全部小屋を利用致しました。而して立山温泉で食料の中継ができます。舌青峠寺からは何も持て行かなくともよい程にこの温泉には罐詰類その外の物があります。番人が出してくれました。それ故この峠を行かれる方は、温泉の経営者と夏の内から約束して食料品その他の備をさせて居くのが有利です。平の小屋も私の行つたときは冬に獵師が居たので入口が開いてゐましたが、もし冬でも獵師が居なかつたときは、小屋の入口の穴を開けねばなりません。併し雪中露營をする方々にとつてはこんな注意は無用でしょうが。

温泉は私の行つたときは這入れませんでした。最後に望みます。高山の地獄谷に天幕を張り之れを根據地として、星を戴いて出て、劍の頂上輝日を拜す。誰かがステンボーゲンの雄大な跡を、長次郎澤なり平藏澤にのこして更に雄山から淨土へと講かないかを思つてゐます。黒部は平の小屋の處では、私の渡渉した月日日時とでは普通の想像とは異つて夏よりは勿論水は少く雪で做はれては居ず兩岸はあまり高く雪がなく、到つて樂に渡渉を行います。

浮動クリスチアニア

小樽スキー倶楽部 讚 岐 梅 二



一昨年の十月、先輩白鳥氏と友人高橋君と三人で『スキーの要領』と云ふ小冊子を出しました。その時この浮動クリスチアニアに就いて一寸書きましたが、私の様な未熟者が、世界中の何の書物にもない様な妙な技術をこねくり出したと云ふ事は、實に生意

氣千萬であつて、之が皆様の御眼にとまつたのは誠に慚愧に堪へない次第です。然し、色々なものが飛び出したり、引込んだりして居る内に、世の中が進歩するものだと云事をお考へになつて、しばらくの間は見逃して戴きたいものです。

實は、随分長い間研究して見ましたが、その間に満足する様な結果は一つも得られなかつたので行き詰つてしまひました。それで自分一人でやつて居ては到底見込がないと思つて、色々のお方におすゝめし、練習して貰ひましたが自分でもわからない様なデジケートな身体やスキーの運動を、云ひ表はさうとするのですから、どうしても他の人には了解されませんでした。非常に残念に思ひましたが、結局之は私だけが勝手にやるべきで、こんな變態的なものを云々するのは無意味だと思つたので、それからしばらくの間は放つて置きました。處が昨年の冬、笹川速雄氏が小樽に參られて、何か面白いものと云ふ御所望なのでお目にかけましたが、大いに賛成して下さいまして是非研究する様にと云ふ御忠告であつたので、又やつて見る事に致しました。どうぞ皆様が私の研究に興味を持つて、御指導下さる様お願ひ申上げます。

浮動クリスチャニアと云ふ名稱は、先輩白鳥氏が、身体が浮くと云ふ意味から反動クリスチャニア(チャーキッド、クリスチャニア)に對して付けて下さつたのであります。

さて、之から皆様と一緒に研究して見たいと思ひますがその前にどうして私がこんなものを考へ出したかと云ふ經過を一寸述べる必要があると思ひます。私は右山の斜面で小さい時から練習して居たのでクリスチャニアを右にテレマークを左にやる様になりました。その後、左にもクリスチャニアをやつて見たいと思ひましたがどうも左足が前に出ません。癪に觸つたので、杖を突いて右足前の儘で無理に左に廻る事を練習し出しました。初めはうまく行きませんでしたが大二三日するに相當な速力で滑つて來ても、ストップする事が出来る様になりました。然し杖にたよつて無理に廻るのであつて、勿論之に満足して居る譯には行きません。今度は半制動據止やテレマークの要領を加味して色々研究して見ましたが、遂に杖を離れてうまくスウ井ングする様になりました。その要領を簡單に示せば(但し之は浮動クリスチャニアではない)

一、谷足前の斜滑降中、前足膝を極く僅か屈指全体重を前足に移す(この時、後足は体重を抜く爲めに踵を少し上げて差支ないが、兩膝を離す事は不安定であるから絶対に避けなければならない)

二、身体を山側に捻り乍ら、前足膝を山側に廻らすと同時に、前足スキーの内角を立て、前足踵に力を入れてスキーの後半部を谷側に押し滑らす。

三、後足スキーは、テレマークの要領と同じく若干角付



伊吹山 (二)

大正三年十二月初で中山
再次郎氏によりてスキー
的運命が開かれた自今京
坂地方の人の唯一の練習
場となつた。近江長岡驛
より一里半で山麓に至
る。驛の名所案内には四
六四六尺と記してある。

(圖は頂上の觀測所)



伊吹山 (二)

緯度の關係上雪質の不良な事は是非もな
い次第である。

此山が札幌近くにあつたならばと常に思
つて居る程斜面の規模は雄大である。地
面が一帶に芝草で被はれてるから、少量
の積雪で滑走可能である。斜面としては
札幌地方にも妙高山麓にも類を見ない。

(圖は三合目の練習場附近)

されて前足スキーに附隨して滑つて来る。

要するにテレマークと同じ様な要領であつて、唯兩膝を多く屈けない事、兩膝を離さない事、体を深く落さない事等が重なる違ひである様に思はれますが、更にまたテレマークと全然異つた身体とスキーの使ひ方が含まれて居ると思ひます。然しこの要領なるものは、私があとから勝手に作つたので出鱈目なものであるかも知れませんが、こもかくこの通りやれば完全に出來ると云ふ事は理論上間違つて居ないと思ひます。其他色々意見もありますが之は本論でないから残念乍ら略す事に致しませう。

丁度この時、私はジャークド、クリスチャニアを覺わましたが、御存じの通り之は身体を振る事のみによつて廻るのであつて、角付等は夫の問題でないので。それで私は愈私の研究するクリスチャニアに對して興味を持つ様になりました。即ち、練習次第では前足側に廻らうと、後足側に廻らうと大した違ひはないと云ふ事を確信する様になつたので、試みに右足前の儘左にジャークド、クリスチャニアをやつて見ましたが別に苦痛でもありません。なほ又足の前後の距離を普通の直滑降の時の様に離してやつても見たが、何等の不都合も起りませんでした。そこで私はこのジャークド、クリスチャニアと前に述べたクリスチャニアとを合せてやつて見たらきつみ鮮やかなものが出來るだらうと、二ヶ月ばかりかゝつてこねくり出したのが此の浮

動クリスチャニケです。

一、身体を浮かばせて、或瞬間だけ体重をスキーから抜き去る様な氣持で全体重を急に前足先に移す。

二、同時に、前足側の肩を前に出して、身体を後足側に捻り乍ら、足先を以てスキーを後足側に廻轉せしめる。

三、廻轉後の横滑りを終らうとする前の瞬間に腰を少し下し、兩膝を極く僅か屈けて体重を兩踵に急に移す。

このクリスチャニアの最も根本的な原理も云ふべき處は、第一動と第二動に含まれて居るものであつて、私は次の様なものではないかと思つて居ります。

(A) 臺秤の上で空中に跳び上つて見ると、身体が空中にある間は秤は重さを感じません。次に身体が臺の上に落ちると、その人の体重よりもつみ大きい重さを感じます。(B) 臺秤の上に立ち、膝と腰とを屈けて屈身し、臺から足を離さずに身体を急に上に伸して見ると、身体が完全にのびてしまつた瞬間から或時間(勿論非常に僅かの間ですが)だけは秤は体重の重さを感じません。そしてその時間が過ぎると、秤はその人の体重よりも稍大きな重さを感じます。

浮動クリスチャニアは、この(B)の場合即ち足を離さずに急に伸び上つた時は、或時間だけは体重を感じない云ふ原理を應用したものであつて、前述の第一動に於て「身

体を浮かばせて、或瞬間だけ体重をスキーから抜き去る」云ふ動作の意味がおわかりになつたと思ひます。然らば、何故こんな事をやらねばならないか云ふに、元來このクリスチャニアは他の何のクリスチャニアよりも急激に廻轉する事を目的とするからであります。滑降中に急に身体だけを捻つてもスキーは廻轉し出す事は事實ですが、或時間だけ体重をスキーから抜いて置いて体を捻れば實に樂に、更に急に、廻轉し出すだらうと思ひます。何となれば重い物の摩擦は大きいと同じわけです。然しスキーから体重を抜くと云つたつてそれは極く僅かの間だけであつて、廻轉し出してからストップするまでの長い間は勿論体重はスキーにかゝつて居るはずで、けれども眞直に滑つて居るスキーを急に廻轉せしめ様とする時には、その初めの瞬間に多くの努力を要するだけで、廻轉し出すとその次の瞬間からは体重がかゝつて來ても、廻轉安性によつてスキーは依然として廻轉運動を續けて居ります。又前の原理から次の様にも考へる事が出來ます。即ち、跳躍廻轉に於ては跳躍に因つて身体を空中に浮かせて置いて、空中でスキーを自分の欲する方面に自由に廻轉せしむるものであつて、抵抗も摩擦もない。空中でスキーを廻すのですから、この點だけは非常に樂であらうと思ひます。然し之は、着陸の際スキーや足に自分の体重よりもつと大きい重さがかゝりますから、そのショックを受ける事が容易ではありません。浮動

クリスチャニアは之と丁度反對であつて、スキーを廻轉せしむる事は前者の様に自由でないかわりに、着陸の時のショックと云ふ様なものがないから、この點に於ては樂であります。即ち跳躍廻轉は前に述べた稗科の(A)の場合、浮動クリスチャニアは(B)の場合、に當つて居るのです。跳躍廻轉に關しては本誌第八號に加納一郎氏が精しく述べられて居りますが、これと浮動クリスチャニアとを比較研究して見たらきつと面白い事だらうと思ひます。けれども私は跳躍廻轉を餘り練習した事ありませんから、之が完全に出來る様になつてから發表したいと思つて居ります。非常にまづい説明でしたが、之で大体の原理がおわかりになつたとして、次に要領の各部分的な動作に就いて申上げたと思ひます。

イ、「身体を浮かばせて」——この動作は「或瞬間だけ体重をスキーから抜き去る」爲めにやるものであつて「全体重を急に前足先に移し」乍ら行ふから身体が前にめかゝる様になるであらう。加之、第二動の「前足側の肩を前に出す」と云ふ動作も同時に行ふから、丁度壁に向つて直立して居る時に、一方の肩でその壁によりかゝつて行く様な具合になる。この「身体を浮かばせる」程度が非常に大切であつて、その爲めに身体の安定がとれなくなつてはいけません。即ちスキーが雪面から離れたり、上体をそらしたり足を屈けたり、臀を出したりしてはならない。

ロ、『或瞬間だけ体重をスキーから抜き去る様な氣持で』
——これは前に述べた原理をあらはしたもので、あの原理を知つてただこの氣持でやればよいのである。

ハ、『全体重を急に前足先に移す』——この動作は、身体の浮かばせ方を説明したもので、今まで後足にあつた体重を全部前足先に急に移すのであつて、その爲めには兩踵を極く僅か上げ、膝を離す必要があるかも知れない。しかし出来る事なら後足踵を僅か上げるだけにして、膝も成る可く離さない方が安定である。この動作は体重を或瞬間だけスキーから抜く爲めに行ふものである云ふ事を知つて居て戴きたい。又体重をスキーから抜く云つても雪が善い時や速力が出る急斜面でやる場合には、スキーが体重を全く感じない様にする必要は勿論ないのであつて、たゞスキーを急に廻轉せしめる事が出来る範圍内で体重を抜けばよい云ふ事も知つて居て載きたい。更に又、この動作は「身体を浮かばせる」動作と、「前足側の肩を前に出す」動作と「身体を後足側に捻る」動作と同時に「行ふものであつて、要するにスキーを急に廻轉させる爲めにスキーから体重を抜いて置いて、その間に身体を猛烈に捻つて眞直に滑つて来たスキーに廻轉運動を與へやうとするのである云ふ事も知つて戴きたい。

ニ、『前足側の肩を前に出す』——この動作は「身体を後足側に捻る爲めに行ふものであつて、肩なごを出さずに單

に身体だけを捻つても目的を達する事が出来るが、肩を前に勢よく出し乍ら臀を谷側へ振るこ、身体を捻つてスキーに廻轉運動を與へると云ふ目的が非常に樂に達せられる。

ホ、『身体を後足側に捻る』——この動作は云ふまでもなくスキーを廻轉せしめる爲めに行ふもので、この浮動クリスチアニアは角付などは問題にせずにとゞ身体を振つてスキーを廻すのであるが、特に急激に廻轉する必要があるのて出来るだけ急に、出来るだけ猛烈に身体を捻らねばならぬその捻り方もジャークド、クリスチアニアの場合の様に臀を谷側へ振つてやらねばならない。そしてこの動作を行ふ正しい瞬間を見出す事が必要である。即ち、体重がスキーから抜き去られてしまつた後に行ふのであつて、しかもその抜き去つた体重が再びスキーの上に落ちて來ない内にやらねばならない。そして又、臀を谷側へ振る運動中、最も力の入つた處でスキーを廻さなければ、急にスキーに回轉運動を與へる事が出来ない。急速力の時は一寸身体を捻つてもスキーは容易に廻り出すが、速力のない時、雪の深い時、雪に水氣があつて硬い時、緩傾斜或は平らな處でやる時などはスキーを廻すのに非常な力を要するが、然し餘り力を入れ過ぎると勿論身体が不安定になる。

ヘ、『足先を以てスキーを後足側に廻轉せしめる』——この動作を行ふ時機は前述の(ホ)を讀むとわかるのであるがその要領を精しく云ふこ、臀を谷側へ勢よく振つて身体に

廻轉運動を興へ之によつてスキーを急に廻すのであつて、兩足先だけでやると云ふわけは次の様なものであると思ふ即ち身体を捻る勢が同じだと思へば、足の裏の全体で（踵と足先に力を入れて）スキーを廻すよりも、足先だけで廻した方が力が入るから、急激に廻轉せしめる目的にかなうからである。之を勢よくやる爲めには兩膝が離れるかも知れない。しかし、膝が離れると云ふ事は不安定であるから出来るだけ避けなければならぬ。勿論絶対に離さずにやる事は不可能であるばかりでなく、勢よく廻すと云ふ目的を達する事も出来ない。膝が離れると兩足スキーを平行せしめる事が困難になるが、勿論兩スキーは平行に、しかも密着して居なければならぬ。又、廻轉を初める瞬間は前足先だけに力を要するだけであるが、次の瞬間からは体重は後足にも落ちて来るから廻轉中は兩足先に力が入るのは當然である。このクリスチニアをやると非常にスキーの金具がぐら付く様になるのを見ても、非常な大きい力を要する事がわかる。

ト、『廻轉後の横滑りを終らうとする前の瞬間に』——之は動作ではないが、此處で角付の事を少し述べて見たいと思ふ。

普通は直滑降中には平踏されて居るが斜面で止つて居る爲めには、スキーは斜面の等高線に平行であつて必ず若干の角付をして居なければならぬ。故に直滑降中スウ井ン

グした場合には身体の安定を保つ爲めに必ず角付が必要である。そして又直滑降中に故意に角付すれば、スキーの構造上必ず廻り出すものである。總てのスウ井ングはこの二つをたくみに應用して作つたものであつて、普通のクリスチニアやテレマークは角付によつて廻轉させると同時に横滑り（角付された横滑り）によつて速力を消滅せしめストップするもので、ジャークド、クリスチニアやその他急激に行ふスウ井ングは身体を振る事によつて廻轉させて角付し乍ら横滑りをしてストップするものである。今この角付をし乍らやる横滑りに就いて考へて見るに、之は身体を安定に斜面の上に保つ必要上是非やらねばならない事であるが、スウ井ングの際は之が制動の作用を爲して非常に大きい前進力を消してストップするのである。この角付の如何がスウ井ングには重大な問題であつてこの呼吸をのみ込めばもう占めたものである。この場合の角付は非常に微妙であつて筆で書き表す事は困難であるが、この浮動クリスチニアをやるとに就いても是非研究せねばならない事の一つである。即ち第二動によつてスキーが廻り出すと角付によつて速力が段々なくなつて行く。そして兩スキーが原進路と直角になつた頃には非常に大きかつた前進力が殆んどなくなつてしまふ。この時に「腰を少し下し、兩膝を極く僅か屈けて体重を兩踵に急に移し」てその横滑りを急に止めるのである。然しその横滑りを續けて行けば自然にス

キ！は停止するが、その時を待つて居る必要がない。こゝらで丁度よいと思ふ處で急に横滑りを中止させても何等の差支はない。けれどもこの時機を見出す事が又面倒である。餘り早過ぎると身体が谷側に投げ出される。勿論投げ出される様な事さへやらなかつたら、早く停止する程鮮やかである。速力の大きい時、雪が浅い時、粉雪の時等には然らざる場合よりも横滑りの時間を長くしなければならぬ事は當然である。

チ、『腰を少し下し、兩膝を極く僅か屈けて体重を兩踵に急に移す』——前の(ト)の處に述べた通り横滑りが終らうとする前の適當な瞬間にこの動作を行つて急に横滑りを止めるのであつて、總てのスウ井ングを最も鮮やかに行ふ方法の一つであるが、その適當な時機を見出すには非常な熟練を要する。早くやる程鮮やかであるがその爲めには身体を極力山側に倒して置いて(横滑りをやつて居る間、体を出側に倒せば角付が多くなされて、速力を消す上にも有利

である)投げ出される事を避けなければならぬ。そして、この動作はウ井ングの終りに無意識に行はれるもので、考へ乍らやると時機を失して無意味になる。又これは微妙に体重を下せば充分であつて、外面に動作として表れる程強くやる事は必要なばかりでなく見にくい威勢となる。

之まで説いて來た後をまごめて云へば、第一動は体重を或瞬間抜く爲めに行ふもので、第二動はスキーに廻轉運動を興へる爲めに行ふもので、第三動は必要條件ではないが鮮やかに急に止る爲めに行ふものであります。餘り複雑になつたので、おわかりにならない處も多い事だらうと思ひますが、そんな點に關しては私の處に御一報下されば、直ぐ御返事申上げませう。結論としての浮動クリスチャニアはどんな効果があるかと云ふ事も一言述べて見たいのですが、來るべき冬に充分研究した上で發表する事に致します私は文章を作る事が専門でありませんが、この點はよろしく御了解をお願い申上げます。

(四) 本邦に於けるスキーの一團の體

照會事項

- 一、加入會員數及性質。
 - 二、組織。支部の有無。
 - 三、設立年月日。
 - 四、事業。刑行物の有無。
 - 五、事務所。(事務所にあらずとも會團の中心となり照會、通信をなし有る宛名)
 - 六、首腦者。
 - 七、會員の主なる滑走地。
 - 八、主なる研究事項。技術上の傾向。
 - 九、會員の有する記録。
- A 飛躍(距離、年月、姓名)
B 長距離滑走(同上)
C 登山、(山名、標高、登山回数)
到着順掲載

小樽水産學校校友會スキー部

- 一、百名、生徒
 - 二、校友會に屬す
 - 三、明治四十四年一月
 - 四、小樽水産學校
 - 五、部長 神六男
 - 六、本校附近高地一帯。本校背面の小毛無山
 - 七、平地滑走、緩傾斜地、急傾斜地に於ける動作、テレマルク、クリスチアニア停止法、
 - 八、飛躍は研究に重きを置かず
 - 九、B、往復路八里以上旅行せることなし
- C、本校背面の小毛無山 一八回
小樽天狗山 三回
鹽谷奥の毛無山、遠藤山 四回
手稻山 二回
岩内背面の山 一回
蝦夷富士(但中腹まで) 一回
- 備考 毎年二月下旬本校附近の高地に於てスキーを穿ち武裝して發火演習を行ひ回を重ねること拾回
本校より小毛無山頂上まで驛傳競走を舉行せり
体操科遊戯用として全生徒に課し、熱心技術の妙拙を見て採點し居れり

一、生徒 參百名
 廳立小樽商業學校スキー部

二、校友會運動部の一部

三、大正二年四月

四、毎年二月十一日スキー大會開催 其他數度の遠足

五、小樽區綠町五丁目廳立小樽商業學校

六、部長 廣山仲

七、綠ヶ丘

八、スキー競走術 畑スキー

九、A、五十二尺 大正十年二月於芦別 野中十郎

B、旭川小樽間五十三里半 大正十年一月五月より十二日迄

(八日間) 滑走總時間四十時三十八分 松田幸義 野中

十次

小樽札幌間驛傳競走 (七名) 三時三十二分九秒 大正十

年一月三十日

長岡スキー俱樂部

一、約二百名 會社員、教員、警察官、及び少數の中等學校生徒

二、會員組織

三、大正元年十二月

四、スキーの普及と技術の進歩を計り講習會、競技會を行ふ

五、長岡市役所内

六、會長 市長豊島愿 理事長小木曾敏

七、悠久山、城山、森立峠

八、研究事項として特に記すべきもの無之きも技術、登山法、スキ

イ製作等多少研究しつつあり

技術上の傾向はノルウェー式なり

九、松本善之七、酒井嘉七、小林誠一郎、高見繁夫等練習中

札幌第一中學校スキー部

一、生徒百名

二、學友會の一部

三、明治四十五年四月

四、毎年一回競技會及登山を行ふ

五、札幌第一中學校内

六、部長 佐々木

七、札幌圓山南麓 三角山 輕川

八、テレマーク、クリスチャニア、燕返、ジャンプ、直滑降、平地滑

走をその重なる研究事項とす

九、藻岩山、手稻山は毎年一回登山す

小樽スキー俱樂部

一、會員七十名、會友百四十名

二、官公使、會社員、軍人、學生等各階級を含む

三、大正九年一月

四、夜間練習場を設置 (電燈を點す)

毎年大會を開催す

毎月登山及練習會を行ふ

シーズン内に於て「スキー年鑑」發行の豫定

五、小樽區稻穂町東六丁目十九番地(村住方)

六、會長伴房次郎、理事長黒崎三市

七、本俱樂部專屬練習場(聖ヶ岳)

八、登山、ジヤムブ、平地滑走

九、A、五二、五尺 大正十年二月 野中十郎

B、五三、五里 四〇時三八分(八日間)大正十年一月高橋次郎

C、遠藤山 七三五m (十四回)

手稻山 一〇二三m (三回)

沖里河山 八〇二m

ニセコアンヌプリ 一三〇八m

イツチヌプリ 一一五四m

金澤スキー會

一、二百名、官公使、軍人、會社員、市民、學生

二、一般市民にスキー術宣傳の爲設立されしもの

三、大正十年一月

五、臨時、石川縣廳教育課に置く

六、會長飯尾金澤市長、常務委員岡本敬一、館愚、村井又三郎

七、大聖寺山、春日山、戸室山、醫王山

關西スキー俱樂部

一、約百名、總ての種類の人

二、評議員五名を置く。支部なし

三、大正六年二月

五、京都府立第二中學校内、中山再次郎方

六、中山再二郎他四名

七、伊吹山、比良山、靈仙岳、妙高山麓

一〇、松本―徳本峠―上高地―蒲田峠―船津

大正七年三月

松本―番所―平場―高山。大正十年三月

眞岡スキー俱樂部

一、百四十三名、一般同好者

三、大正三年二月

四、1、毎年スキー術講習會を一回乃至二回開催

2、毎年一回スキー競技會を開く

3、毎年數回スキー登山並に遠乗を試む

4、スキー購入費補助、本項は本年初めての試にして其効果

判明せざるもスキー術の普及はスキーを安價に購入せし

め多數者に實地試練の機會を多く與ふるにありと思料せ

らるゝに依る

五、眞岡支廳内

五、會長三宅貞太郎、常務理事事務擔當者片谷善三郎

七、本地方は氣候並に地勢等の關係上到る所天然の好滑走地なら

ざるはなく隨所に一大スローラムを形成し特記し難し

八、當地方に於けるスキー術の起原はレルヒ中位の流を汲むを以

て創立二三年は確實を旨とする奥國式アルペンスキー術最も

旺盛を極めたるも其後、漸次諸國式スキー術の流行を見るに

至り従つて其の技術演技的の傾向を有するも本地方は比較的

山岳重疊するを以て將來は奥國式の確實と諸國式の輕快さを

加味する技風を生むに至るべし

函館商業學校スキー部

ル　　ー　　ブ　　ス

1921—1922

- 一、生徒、九十名
- 二、同志集合、支部なし
- 三、大正二年
- 五、函館區元町二十一番地桐野興太郎宛

- 六、幹事、桐野興太郎
- 七、市中及郊外
- 九、体育上の効果、實用上の利益

十二月

- 廿一日 學習院輔仁會スキー部合宿練習の爲關温泉に向ふ
- 廿三日 北海道帝國大學文武會スキー部合宿練習の爲青山温泉に向ふ
- 廿四日 より一月七日まで關西スキー俱樂部伊吹山スキー練習會
- 廿五日 小樽高等商業學校スキー部合宿練習の爲宮川温泉に向ふ
- 廿八日 東京帝國大學スキー部合宿練習の爲赤倉温泉に着
- 廿八日 第一高等學校旅行部スキー部合宿練習の爲關温泉に向ふ
- 早稲田大學スキー部は田口温泉に於て合宿練習をなす
- 慶應義塾体育會山岳部は關温泉及び五色温泉に於てスキー合宿練習をなす
- 一月 櫻庭留三郎氏小樽出發犬スキーにて本州に向ふ
- 三日 東孝太郎氏青森發スキーにて高田に向ふ
- 五日 二月十日右兩氏共に高田市に着
- 六日 北海商業學校スキー部員三名旭川小樽間滑走の爲旭川出發
- 七日 旭川出發
- 八日 關西スキー俱樂部伊吹山スキー競技會
- 九日 京都旅行團伊吹山スキー大會(赤倉)
- 十日 東京帝國大學スキー部員五各々カムシユツバ山麓旭岳を究む
- 十一日 早大スキー大會(會津中之澤温泉)
- 十二日 攝政宮殿下富士山麓にて第一回スキー御練習會
- 十三日 山岳講演會(櫻有馬、鹿子木員信)三田登高會
- 廿九日 北大主催札幌中等學校一九二二年スキー競技會(輕川)
- 二 山とスキーの會主催手稻登山會
- 五日 北海道青年協會主催全國スキー大會(琴似)
- 十一日 東京スキー俱樂部主催スキー選手權大會(田口)
- 十二日 小樽スキー俱樂部主催全國スキー大會(小樽)
- 十九日

奥國製スキー登山用具

**Bilgeriski, Alpineski
Wienski**

Manufactured by

Mizzi Langer Kauba Co.

複杖。眼鏡。帽子。笛
登山靴。登山スパイク
其他附屬品一式

最近入荷致しました。至急御注文下さい

マリア運動具店

大阪市北區堂島北町六番地

電話北二八三六番 振替口座大阪六〇七七七番

豊富なる積雪

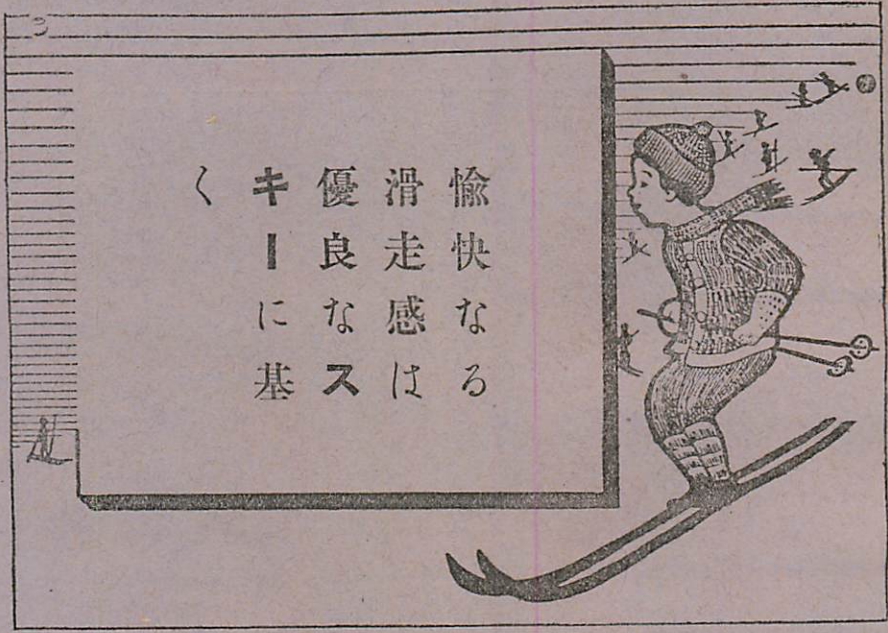
附近にはニセコアンヌプリ、イ
ツチヌプリ、チセヌプリ、メク
ンナイ岳等五千尺内外の高嶺を
有し、東に秀峯蝦夷富士を望む
四周は整正なる峻急各種の斜面
を有し、クリスチアニヤ。テレマ
ークなど思ひのまゝなり。
滾々として湧出する清純無比の
温泉は終日滑走の疲勞を醫し、
凛烈なる寒氣を忘れしむ。

快適なる雪質

ススキーランの一爲に設備全く整へる

青山温泉

函館本線 昆布驛



愉快なる
滑走感は
優良なス
キーに基
く

スキーの

撰擇と

附屬品の

完備

充分にスキーを楽しむには優良なスキーが必要で
す。細心の注意を以て附屬品を整へなければ
スキー旅行は出来ません。

梅屋運動具店

小樽区 電話 九八〇番
樽小替 振替 〇七番
總店 八番
町 六番
大通 〇番

大正十年六月七日第三種郵便物認可
 大正十一年二月十四日印刷
 大正十一年二月十五日發行

(每月十五日發行)

山とスキー 第十二號

【定價金參拾錢】



品 屬 附 と キ ス

目丁五西條一南幌札

店 具 動 運 谷 小

番四六九七樽小替振 番八六五一話電

行發日五十月二年一十正大 本納刷印日四十月二年一十正大

(行發日五十回一月每)

錢卅金部一價定

郎 一 納 加 者 行 發 一 敬 橋 板 者 刷 印 兼 輯 編

目丁二西條一北區幌札
 社 會 式 株 刷 印 幌 札

所 刷 印

目丁七西條三北區幌札
 會 の 一 キ ス と 山
 番 五 九 四 八 樽 小 座 口 替 振

所 行 發